

1. それから三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があって、そこにイエスの母がいた。イエスも、また弟子たちも、その婚礼に招かれた。(2:1-2)
  - a. 「三日目に」という書き出しで新たな話が始まっているのは興味深い。ここで章が変わっているの  
で物語を切り離してしまいがちで、これまでイエスが言われたことやなされたこととはつなげにく  
いかもかもしれないが、三日目に、という記述は一連の物語として進めるためのつなぎの役目をしてい  
る。
  - b. この前の章でイエスはナタナエルに、さらに大きなこと — 天が開けることや神の御使い — を見  
ることになる、と約束された。その約束をされたうえでこの最初の奇蹟がおこることになる。
  - c. 「三日目」という表現は珍しいものではない。三日目に神はシナイ山に降られ、この後三日目にイ  
エスはよみがえられる。創世記においては三日目というのは二倍の祝福の日である。三日目という  
のは神学的意味もあるのでヨハネはそこを強調している。三日目に婚礼があり、イエスと弟子たち  
が招かれた。それを神がどのように祝福されたか見ていこう。
  
2. ぶどう酒がなくなったとき、母がイエスに向かって「ぶどう酒がありません」と言った。すると、イエ  
スは母に言われた。「あなたはわたしと何の関係があるのでしょうか。女の方。わたしの時はまだ来てい  
ません。」母は手伝いの人たちに言った。「あの方が言われることを、何でもしてあげてくださ  
い。」。(2:3-5)
  - a. 福音書全体にわたってイエスは、その言葉や行動はイエスご自身のものではないとおっしゃってい  
る。イエスの母が窮地に陥った時、当然イエスは息子として母をその状況から救ってあげたか  
ったと思う。しかしイエスは、わたしの時はまだ来ていない、とおっしゃった。
  - b. イエスの母はこの祝宴の責任者であったのであろう。ぶどう酒が切れれば花婿の家族にとっても面  
目丸つぶれである。そしてマリヤは「あの方が言われることを、何でもしてあげてください。」と  
手伝いの人たちに言った。
  
3. さて、そこには、ユダヤ人のきよめのしきたりによって、それぞれ八十リットルから百二十リットル入  
りの石の水がめが六つ置いてあった。イエスは彼らに言われた。「水がめに水を満たしなさい。」彼ら  
は水がめを縁までいっぱいにした。イエスは彼らに言われた。「さあ、今くみなさい。そして宴会の世  
話役のところに行って行きなさい。」彼らは持って行った。(2:6-8)
  - a. この家庭は敬虔で裕福であったと思われる。敬虔であったことは来客のための清めの水が用意され  
ていたことから、裕福であったことは石の水がめ（それは大変高価な物であった）があったことか  
ら推察できる。
  - b. 水がぶどう酒に変わった奇蹟の霊的意味については幅広く論議がされているが、ある人たちは水は旧  
約聖書と旧い契約を象徴し、ぶどう酒は新約聖書と新しい契約を象徴していると考え。あるいは  
旧約聖書/旧い契約は足りなくなったぶどう酒だという考えもある。
  
4. 宴会の世話役はぶどう酒になったその水を味わってみた。それがどこから来たのか、知らなかったの  
で、——しかし、水をくんだ手伝いの者たちは知っていた——彼は、花婿を呼んで、言った。「だれ  
でも初めに良いぶどう酒を出し、人々が十分飲んだころになると、悪いを出すものだが、あなたは良  
いぶどう酒をよくも今まで取っておきました。」イエスはこのことを最初のしるしとしてガリラヤのカ  
ナで行い、ご自分の栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。(2:9-11)
  - a. 私個人的には旧約聖書/旧い契約は足りなくなったぶどう酒のようだ、という解釈を好んでいる。旧  
約時代の神と人との関係というのは、とても美味しくいくら飲んでも足りないのようになってしま  
ったぶどう酒のようである。神は良いお方で、旧約時代においても常に良いお方であった。
  - b. 清めの水がめの中の水は、神のご臨在がなくなった時人が用意したものである。旧約と新約の間  
には400年の歳月があったと言われている。その間は清めの水しかなかった。最初のぶどう酒はな  
くなったが、イエスが新しいぶどう酒を用意してくださった時、再び良い時代が到来しただけでな  
く、最初よりもすばらしい神のご栄光とご臨在がもたらされた。
  - c. イエスがこの奇蹟を婚礼の場で行われたのは、花嫁と花婿が一つとなる結婚の神秘が、キリストと  
教会が一つになるという神秘を指し示しているからであろう。